

速報性と誤報

～インターネット時代にはミスが増えてしまう～

[アサヒ・コムが別人名を掲載 = 兵庫・加古川7人殺害事件](#)

朝日新聞社のアサヒ・コムが殺人事件の容疑者として別人の名前を数時間にわたってインターネットに掲載しました。

最近、TVのニュースより報道が早いことから、インターネットのニュースサイトを見る人も増えてきました。

その中でこのような誤報が起きました。

[年金改革法、官報に条文40カ所の正誤表を掲載](#)

年金改革法案にミスがたくさんあった、というのも話題になりました。

何度もチェックをしたはずが、40ヶ所の正誤表をつける結果となったのです。

[価格間違いで、サイト閉鎖 丸紅ダイレクト](#)

以前、この欄でも取り上げた丸紅ダイレクトがPC価格を1桁間違えて安くしてしまった事故では、丸紅ダイレクトはサイトを閉鎖しました。

朝日新聞、年金改革法案、丸紅と、信頼ある団体がこのようなミスを犯すのはなぜでしょうか。

インターネットは誤字・脱字だらけ

例えば、レンタルサーバーのことを「ホスティング」と呼びますが、普通に漢字変換をすると、「穂ステイング」になります。

Googleで「穂ステイング」で検索をすると、意外にも会社のサイトでそのままになっている所があることがわかります。

(当社でも同じようなミスがあるかもしれません。気づかれた点があればお知らせください。)

ミスの原因は、速報性の代償と、アップロードミスか。

アサヒ・コムや丸紅ダイレクトのミスは、速報性のため、どうしてもチェックが甘くなったと言えると思います。

年金改革法案のミスですが、実は私もこれと似たような失敗をした経験があります。

というのも、ある資料を作成して、何度か修正をし、結局、修正前のものを提出してしまったのです。

年金改革法案がどういう経緯でミスをしたのか、わかりませんが、多分、アップロードミスなのではないかと想像します。

速報性はインターネットの最も重要な部分です。また、資料がすぐに修正できるのも、パソコンのいい所です。そのかわりに、ミスが増えてしまうわけで、インターネット時代には、ミスがあるかもしれない、と考える心構えが必要かも知れません。